

『颯と流』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

都留市・西桂町

「第28回 生徒の健全育成を目指す中・高連携連絡会議」

6月23日（木）、県立都留興譲館高等学校（小佐野景賀校長）において「第28回 生徒の健全育成を目指す中・高連携連絡会議」が開催されました。都留市と西桂町の中学校の校長先生方と都留興譲館高校の校長先生が一堂に会し、都留・西桂地区の「都留ブロックの中・高連携教育の現状や課題」について情報交換と意見交換を行いました。

都留第一中学校や都留第二中学校では、男女バレー部や相撲部を中心として都留興譲館高校との中高の合同部活動が行われていることが報告されました。今後もこの活動の継続・発展を確認するとともに、同様の活動が学習面にも広がっていくことが期待されました。

ここ数年、中学・高校ともにコロナ禍の影響で多くの学校行事が中止又は縮小されるなか、生徒達が達成感を得る機会が減ってしまいました。今後は、幼小中高大のタテの連携を強め様々な連携事業を行うことにより、知育・徳育の両面に関して子どもたちの成長を促して行くことの重要性が話されました。

次回の連携連絡会議は11月をめどに開催され、今回あげられた課題に対するより具体的な解決策を探って行きたいと思います。



未来を拓く！ 高校生インターンシップ推進事業 地域連絡会議

5月16日（月）に県総合教育センターにおいて、高校生インターンシップ推進事業地域連絡会議が開催されました。

全体会では、インターンシップの昨年度の状況や本年度の事業計画、高校新卒者の就職内定率・求人状況等の説明の後、山梨労働局や山梨県中小企業団体中央会、県産業労働部労政雇用課から説明がありました。

富士・東部地区の地域連絡会議では、インターンシップ等担当者による今年度の就職希望者、各校の実践状況や課題が発表されました。各学校の特色に応じた体験活動の状況や新規受け入れ企業の開拓における課題、看護体験・医師体験の実施状況など様々な意見交換がされました。

ハローワーク富士吉田の渡邊亜矢子就職支援ナビゲーターからは、「郡内の有効求人倍率は製造業（金属・機械組み立て）やサービス関連（介護・福祉）が増えつつある。ただし、製造業は今後部材調達ができないなどの懸念材料がある」との報告がされました。また、「インターンシップは働くことについて学ぶ良い機会である。ぜひ積極的に参加してほしい。また、リスト以外の企業でのインターンシップを望む場合にはハローワークまで問い合わせしてほしい」とおっしゃっていました。

インターンシップは、高校生の皆さんにとって自分の将来を考え、自己を知る絶好の機会になるはずです。ぜひ積極的な参加を！



子どもたちの教育は地域全体で担う!!

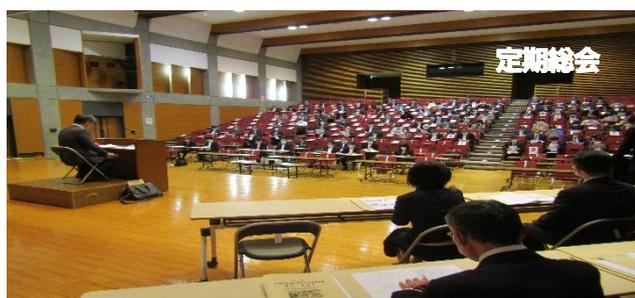
南都留地域教育推進連絡協議会

総会・講演会

開催

南都留地域教育推進連絡協議会では、令和4年度の総会・講演会を6月15日(水)に「勝山ふれあいセンター」において対面による形で2年ぶりに開催しました。昨年度は県内の新型コロナウイルス感染者の急増による「不要不急の外出自粛、イベントや会議等の延期・中止の要請(臨時特別協力要請)」を受けて、書面による開催でした。

総会では、コロナ禍にみまわれた昨年度の事業報告・会計報告・監査報告の後、本年度の役員について新役員が承認されました。後半では、山梨大学大学院教授栗田真司先生から「これからの地域教育力と学社連携」という演題で講演をしていただきました。県内にある公民館の数を例として、山梨県の文化として存在している地域の結びつきの強さの素晴らしさを強調していました。この地域の結びつきの強さを学校と社会の連携に生かし、子どもたちの成長を見守って行きたいと思いました。



「まちづくりは人づくり、地域の子どもは地域で育てる」

地域教育「明日の風」

北都留地域教育推進連絡協議会 定期総会・教育講演会

北都留地域教育推進連絡協議会では、6月30日(木)に定期総会・教育講演会を大月市民会館で開催しました。総会では、昨年度の事業報告をプレゼンにて行い、会計決算報告・会計監査報告に続き、役員選出では、会長を小林信保大月市長とし、村上信行上野原市長、船木直美小菅村長、岡部岳志丹波山村長を副会長とする役員が承認されました。令和4年度の事業計画案および会計予算案では、「まちづくりは人づくり、地域の子どもは地域で育てる」のスローガンのもと、北都留地域の各種団体・行政、地域住民との連携を図り「望ましい環境づくり」を推進する多くの事業についての貴重な意見をいただき可決しました。

総会の後、東京から大月市に移住してきた若者たちによって結成された地元 YouTuber ローカルディスタンスの方々から、「地域の魅力発信」の活動発表が行われました。

また、教育講演会では山梨県立大学教授 坂本 玲子 氏をお招きして「子どもたちの心に愛の基地」と題してご講演いただきました。子どもたちからの問いかけに対して、大人としてどのように対応するべきなのか、非常に示唆に富む内容でした。

地域教育「明日の風」の活動に対して「明日の風のこれまでの事業を継続する中で、新しい事業にも取り組んでいただいていることに敬意と感謝を申し上げます」等の感想がよせられました。



富士山学習研究会

世界文化遺産を伝えていくために

富士河口湖町立教育センター（藤巻桂吾所長）は6月9日（木）に富士河口湖役場において、第2回研究会（富士山学習研究会）を開催しました。

これまでの富士山学習研究会の活動の成果と課題を確認した上で、今年度の方向性として、これまでの研究テーマである「世界文化遺産である『富士山』を児童生徒に伝えていくための授業実践をどう進めるか」を継続進化させ、特に富士山科学研究所との連携による「防災学習」の普及と高学年向けの新プログラム開発に向けて活動を続けていくことが確認されました。

研究会の後半では、富士山科学研究所、富士河口湖町地域防災課の方々による講演会・実験が行われました。富士山科学研究所の方々による火砕流実験では、実際に教職員の皆さんが道具の組み立てから実験を行いました。今後の授業での活用が期待されます。



山中東小×富士山科学研究所

出前授業

5月13日（金）に、「富士山の自然」をテーマに富士山科学研究所の篠原良典先生と林龍樹先生が山中東小学校を訪問し、4・5年生を対象に出前授業を行いました。パワーポイントや動画を使いながら、富士山の「成り立ち」「水」「動植物」についてクイズ形式で学びました。約1200年前の噴火による溶岩の流れを現在の地図と照らし合わせて比較したり、富士山の雪が溶けた水が忍野八海や白糸の滝で湧き出る仕組みや宝永噴火の影響により火山灰が東京や千葉を含む広い範囲に影響があったことなどを学習しました。子どもたちにとっては毎日見ている富士山ではありますが、新たな発見がたくさんあり、そのたびに「へえ〜」と感心していました。

教室で行われた授業ではありましたが、子どもたちは「自然」を感じることでできる学習でした。今後行う予定の自然教室に対するわくわく感が高まりました。



南都留特別支援教育研究会

6月28日（火）、富士吉田市民会館において「第2回 南都留特別支援教育研究会」が開催されました。今回は学習会形式で行われました。同じ悩みを持つ先生方で3つのグループに分かれ、テーマ別に日頃の指導での悩みや先生方の困り感に対応した形式で行われました。

ふじざくら支援学校とやまびこ支援学校から5名の先生方に助言者として出席していただき、「先生が生徒の気持ちを言語化してみるといいですよ」「活動ありきでなく、どんな力を身につけさせたいかをよく考えて」など、具体的な指導方法等のアドバイスを頂きました。

様々な悩みを教員が自分事として共有し、活発な意見交換の中で問題解決につながるアイデアを共有できる有意義な会議となりました。

第3回研究会は令和5年2月14日に開催予定です。



明日の風 アスリート実技講習

今後の予定 9月23日(金)・11月5日(土)
2月18日(土)・3月4日(土)

5月7日(土)晴天の中、大月市営陸上競技場で第1回アスリート実技講習会が開催されました。

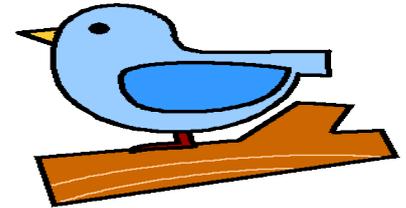
当日は小学校2年生～中学生まで約60名の子どもたちの参加がありました。最初に全体でウォーミングアップを行い、身体をほぐした後に、参加者が6種目(短距離・長距離・ハードル・走り高跳び・走り幅跳び・ジャベリックボール投げ)の中から好きな種目を2つ選び、競技の基本を学びました。

特にハードルでは、初回ということで足の上げ方・下ろし方の練習をゆっくりとした動作で繰り返し練習しました。子どもたちは慣れない姿勢をとりながらも、リズム感を保ちつつ何度も基礎練習を繰り返していました。

第2回は6月18日(土)に、大月市民体育館において桃太郎スポーツクラブとの共催により実施されました。今回子どもたちは6種目(30mダッシュ・30mハードル・立ち幅跳び・高跳び・メディスンボール投げ・長距離走)の競技で記録測定を行いました。自己最高記録を達成した瞬間の子どもたちの大きな歓声が印象的な一日になりました。



シオジ森の学校 探鳥会・間伐作業



5月22日(日)前日の雨が上がり、朝靄のかかる幻想的な風景の中で「探鳥会」を行いました。早朝だったため、まずは朝食を広げて腹ごしらえをした上で山中に分け入りしました。今回の目当ては、日本三鳴鳥(さんめいちょう)の「ウグイス」「オオルリ」「コマドリ」の鳴き声を聞くことです。講師の天野文義先生が用意したピンゴシートに野鳥の名前を記入し、聞こえた声を塗りつぶして行きました。「あっ!今の鳥の声聞こえた?」と天野先生が言うと、みんなで耳を澄まして野鳥の声を探しました。夏鳥のキビタキ、沢沿いに住むミソサザイの声もあちらこちらから聞こえました。初夏の爽やかな森林の空気に包まれ、シオジの森の中で自然の豊かさを満喫した一日になりました。

また6月4日(土)にはシオジの木の間伐作業がありました。20年以上前に植樹し、10メートル近くまで成長したシオジの木を約15本程度間伐し、他の木への日当たりを良くしました。富士・東部林務環境事務所の職員の方々の指導の下、子どもたちはのこぎりを手にして、慣れない手つきながらも一本づつ間伐を行っていきました。山をきれいな状態に維持することの大切さと大変さを実感した一日でした。





山梨県立産業技術短期大学校 都留キャンパス 小中学生向け出張授業のご案内

産業技術短期大学校は、「ものづくりとホスピタリティ」を教育理念として、機械・電子産業、情報通信業等を支える人材や観光旅行業を担う人材の育成に向けた様々な授業を行っています。

都留キャンパスでは、当校教職員が小中学校に出向き「出張授業」を実施いたします。「ものづくり」の仕組みや面白さを伝え、小中学生のキャリア教育に役立てていただきたいと思います。

※下表は一例です。この他にも御要望により検討させていただきます。

【問い合わせ先】

県立産業技術短期大学校 都留キャンパス
教務学生担当

Tel:0554-43-8911 Fax:0554-43-8919

〒402-0053 都留市上谷5-7-35

令和4年度 小中学生向け出張授業一覧

科目	教科等	内容
理科（実験）	てこの原理などを器具や道具を使いながら学習する。 【小学5・6年向き】	連絡後調整
理科（実験）	3Dプリンターってなに？（3Dプリンターの仕組み説明と、デモンストレーション） 【小学校高学年・中学生向き】	連絡後調整
情報	スクラッチでかんたんプログラミング ～『ドローン』を飛ばそう～ 【小学4年生以上 10名まで】	連絡後調整

令和4年度 小学生向け出張ものづくり体験塾一覧

科目	内 容	定員
工作	よく飛ぶ紙飛行機を作ろう！ 低・中学年が対象です	10～20名程度
工作	ペーパークラフトで『あんどくん』をつくろう	10～15名程度
電子工作	電子工作で 暗いと光る『LEDランタン』をつくろう	10名程度

☆オープンキャンパス（都留キャンパス）

7月31日（日）、8月28日（日） 時間10：00～12：00

☆個別見学会（希望学科の施設見学、授業見学など）

事前申込制（ホームページまたは電話にてお申し込みください）

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。

URL：<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望、地域連携活動の情報がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 教育支援スタッフ 0554-45-7841